

# 学習院、早稲田下す

大会2日目の4日は東の1回戦13試合、西の2回戦8試合の計21試合があった。東大会では都東が順天に9回サヨナラ勝ち。学習院―早稲田は延長10回の攻防を制した学習院が勝ち上がった。ノーシードの有力校・帝京はゴールド勝ち。初出場の都北豊島工は初戦を飾れなかった。西大会では、拓大一の木村喬投手が都三鷹相手に13奪三振の快投を見せた。大会は5、8日、期末試験のため休み、9日に再開される。



学習院が早稲田との大会最初の延長戦を制した。試合後、滝沢拓也監督(34)は「みんなが成長すると信じていた。毎回、選手たちがたくましくベンチに帰ってくるのを見るのが楽しくてたまらなかった」と涙を流した。

3―3で迎えた延長10回表。1死一、二塁の場面で滝沢監督が出したサインは「ダブルスチール」。「攻めの姿勢を見せたかった。『行けたら行け』ではなく『この1球で行きなさい』と出した」

走者2人がこれに添えて二、三塁とすると、長崎航の内野ゴロで三塁から清水寛が突っ込み、1点をもぎ取った。

積極的な姿勢は10回裏の守りでも続く。中堅手の長崎は1死二塁、相手の中前安打をつかむと本塁へ好返球、飛び込んだ走者を刺した。「点が入ったら流れが変わってしまう。どうして刺したかった」

## 積極プレー、勝利もぎ取る

これまでは試合で落球したり、トンネルしたり。滝沢監督が「弱気になりがち」と心配する選手一人だった。試合の前夜、監督から励ましのメールを受けとり、「無心でがんばります」と返信した。

長崎は「メールの通り無心でプレーできた。ただただうれしかった」と振り返った。

長崎の好返球を受けた捕手、山田尊広。昨秋の都大会後、滝沢監督に「周りが見えていない。もっとみんなを助ける」と注意されていた。

この日は終盤、疲れが見えた投手、瀬尾健太郎のショートバウンドを何度もしっかりと受け止めた。

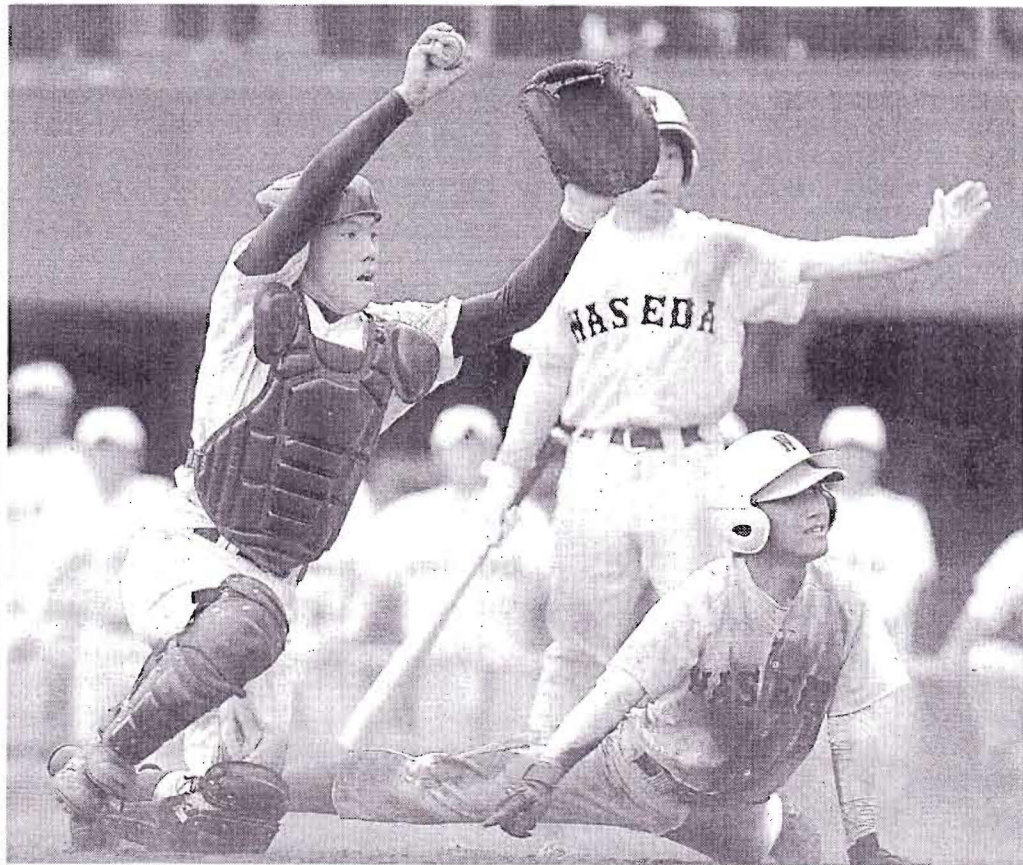
冬の間、1日50球ずつなどと決め、ショートバウンドを捕る練習を続けた成果が表れた。

9回、10回は相手の4番打者を三振に打ち取り、バッテリーでガッツポーズを見せた。

中学時代スランプに陥り、野球をやめようかとも思ったという山田。東東京大会で「真剣なのに楽しそう」にプレーする学習院の選手たちを見て、考えを改めた。今は「1勝でも多く監督を勝たせたい」と思っている。

敬称略  
(千葉恵理子)

第92回  
全国高校  
野球選手権  
東・西東京大会  
主催/朝日新聞社・都高野連



学習院―早稲田 10回裏早稲田1死二塁、二塁走者菊池(右)が志岐の中前安打で本塁をつくがタッチアウト。捕手山田(左)が志岐の中

### きのうの勝敗

東大会 = いずれも1回戦

◇神宮									
都東	小京	岩実	000	000	11	18			
			230	021	×	8			(7回コールド)
帝攻	京社	玉	100	212	410				
			000	000	010				(7回コールド)
都科	学立	技術	000	00	0				
足立	学立	学立	450	3×	12				(5回コールド)
◇神宮第二									
青山	学院	高	000	200	000	28			
			200	023	10×	8			
順都	天東		001	003	001	56			
			000	110	031	6			
◇都営駒沢									
都荒	川工		000	000	000	0			
東京	成徳	高	000	015	00×	6			
桜世	田谷	学	000	200	002	48			
		園	021	302	00×	8			
◇府中市民									
郁文	館成		000	401	04	9			
開成			000	100	00	1			(8回コールド)
学早	習院	早稲	201	000	000	14			
			003	000	000	03			(延長10回)